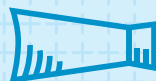


健康アドバイス



熱のひきつけ (熱性けいれん)について

はじめに、けいれん(ひきつけ)とは、一般に意識がなくなり全身の筋肉を強直させる状態をいいます。子どものけいれんの原因にはいろいろなものがありますが、一番多い熱性けいれんについて簡単に説明します。

熱性けいれんについて

生後6ヵ月から5歳位のお子さんにみられます。38℃以上の発熱にともなって起こり、脳などに明らかな原因がないものをいいます。子どもの脳は成長過程にあり、急激な熱変化に対応することができずけいれんを起こすと考えられています。日本人では10人に1人位にみられ、決してまれではありません。1回だけしか起こさない人が過半数です。再発率は約30%、3回以上起こす人は9%程度です。繰り返す場合には予防薬が有効な場合もあります。通常けいれんの持続時間は5分以内で、危険な場合や障害を残すことはまずありません。

けいれん時の対応

かわいい我が子が急にけいれんを起こした場合、親として動揺するのは当然です。しかしできる限り冷静に対応することが大切です。けいれん時の対応のポイントを説明します。

1. あわてない

たいていは数分間で止まります。命に関わることは、まずありません。

2. 何もしない

口の中に指や箸をいれないでください。(舌を咬む事は少なく、咬んだとしても後で対応すれば十分)大声で呼んだりゆ

すったりしないでください。

3. 楽な姿勢で

横に寝かせ、服をゆるめてください。ピンなどの危ないものは取りはずしてください。

4. 吐くと危ない

吐きそうであれば、顔だけでなく体ごと横を向けてください。

5. 冷静に観察

時計を確認し、けいれんの様子をよく観察してください。元に戻るまでそばにいてあげてください。

緊急に病院などを受診する目安

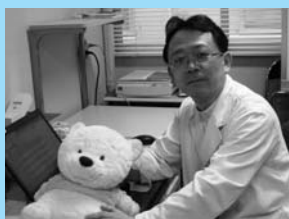
以下の場合には急いで医療機関を受診してください。まれに重い病気が潜んでいます。

1. けいれんが10分以上続く時

2. 短い間隔でけいれんを繰り返し意識障害が続く時

3. 初めてけいれんを起こした時(特に1歳未満)

4. けいれんが止まった後に手足が動かない、意識障害が続く。初めての時は特に不安だと思いますので、躊躇せずに救急車を呼んでかまわないと思います。とてもビックリするでしょうが、たいていは大丈夫なのです。安心してください。詳しいことは小児科の主治医の先生と良く相談してください。



国立病院機構 西新潟中央病院

☎025-265-3171 新潟市西区真砂1-14-1

てんかんセンター
神経小児科

赤坂 紀幸